

カイツブリ

潜水名人のカイツブリ。写真は冬の姿です。夏はもっと黒っぽくてコントラストの効いたファッションをまとっているのですが、未だに撮影できずにいます。

夏は繁殖の季節。ガマなどの抽水植物のしげみのすき間に、水草で浮巣をつくって産卵します。子供が育ちきるまでは、開けたところにはあまり出てきません。



ただし、キリキリキリと大声で鳴くので、近くにいるのがわかります。

カイツブリという名前は、「水を掻いて潜る」ことから命名されたそうです。また、万葉集では「にほとり」の名で詠まれているようですが、こちらも「水に入る鳥」という意味だそうです。

ウェットランドの計画当初からアドバイザーをお願いしている上野吉雄先生によれば、最近では県内各地のため池で、カイツブリのヒナがなかなか育たなくなっているとのこと。ブラックバスに食べられてしまうそうです。ウェットランドではブラックバスをあるていど駆除してきたので、順調に育っているようですが、油断は禁物、今後も駆除を続けていかなければなりません。